

## 編集後記

二〇〇二年度最初の会誌をお届けいたします。会報でもお知らせいたしました。会員の減少化による財政難等を考慮し、二〇〇二年度から会誌を年三冊とすることになりました。研究会活動の大きな柱といえる会誌を一号減らすことになったわけですが、会誌の内容を充実させることで補っていきたいと考えております。今後とも、会員の皆様が研究成果を部会等で発表くださり、論文等として投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

さて、本号は論説二本、研究ノート一本、史料紹介一本を掲載させていただきました。大塚氏の論説は、大友氏家臣団編成を故実書から検討するという新しい視点からの研究成果。三重野氏の論説は、「石垣原合戦」について様々な史料を再検討し実像に迫ろうとした研究成果。長谷川氏の研究ノートは、「責用人場」という特殊な用語について、多くの史料から意味を明らかにしようとした研究成果。甲斐氏の史料紹介は、近世村落の状況を示す基礎史料となるもの。いずれも、内容は勿論、研究の視点・方法等、学ぶべき点を多々含んでいると考えます。

最後になりましたが、会員皆様の一層のご研讀を願ひ、またご多幸をお祈り申し上げます。  
(佐藤)

平成十四(二〇〇二)年九月二五日 印刷  
平成十四(二〇〇二)年九月三〇日 発行

## 大分県地方史 第一八六号

編集者 佐藤 晃 洋

発行者 豊田 寛 三

印刷者 廣永 晴 巳

大分市大手町二丁目三十四

印刷所 有限会社舞鶴孔版

(☎五三二一四二三二)

発行所

〒八七〇一―一二四

大分市且ノ原七〇〇

大分大学教育福祉科学部国史研究室内

大分県地方史研究会

(振替・〇一五八〇一―二五二九四)